

吉澤 正人 さま

吉澤正人先生が、今年の3月で岩手大学の定年退官を迎えられ、3月2日には最終講義、退職祝賀会が計画されているとの案内をいただきました。
新潟から心からの挨拶を送ります。

今から43年前の仙台の東北大学科学計測研究所の神吉研究室には、大学院生として私（後藤輝孝）、吉原章（石巻専修大）、田巻明（東京電機大）らが在学しており、そこに若かりし吉澤先生も加わり、セミナーや実験に明け暮れる毎日を送りました。そこには、高度成長へ向かう昭和の良き時代の自由な雰囲気があったと思います。そこで物理を学んだ若者達は、その後の研究者としての人生に影響を受けたと考えております。

吉澤先生は、大学院修了後にドイツのフランクフルト、フランスのグルノーブルにおいてLuethi教授のもとで超伝導の研究をされた後、岩手大学に就職され、平成の30年間を駆け抜けてこられました。岩手大学ではヘリウム液化機の設置など研究教育の発展に尽力され、さらに全国を視野に入れながら多極子、鉄系超伝導など物性研究の先頭に立ってこられました。これらの優れた業績に、心からの敬意を述べたいと思います。

これからは、人生百年時代になると言われております。吉澤先生の定年後のますますのご活躍を期待して、退職への祝賀といたします。

3月1日

後藤輝孝 （新潟大学）